

No	事業名	事業概要	連携・協力先（区内大学）																
			国士館大学	駒澤大学	昭和女子大学	成城大学	東京都市大学	東京農業大学	産業能率大学	多摩美術大学	東京医療保健大学	日本女子体育大学	日本大学文理学部	日本大学商学部	危機管理学部 日本大学	スポーツ科学部 日本大学	日本体育大学	明治大学	テンプル大学
50	特別支援教育の専門家派遣試行	区立幼稚園において、特別支援教育に係るアドバイス等を行う。	○																
51	食品衛生教育	区立小学校で手指の菌を培養し、手洗いの重要性について学ぶ授業を実施。									○								
52	英語体験教室	教育総合センターにおいて、テンプル大の教員が講師となり、大学生のアシスタントティーチャーとともに「小学生対象」「中学生対象」「高校生以上・社会人・シニア対象」各クラスの英語体験教室を月1回の割合で実施																	○
53	教育総合センター「STEAM教育講座」	プログラミングや科学実験など、各教科の知識や考え方を総合的に活用して課題解決をめざすSTEAM教育（科学、技術、工学、芸術、数学）に関する内容や創造する力をはぐくむことを目的に講座を実施する。	○	○	○	○	○	○											
54	管理栄養士養成施設公衆栄養学実習	管理栄養士の配属されている課で公衆栄養学の実務研修として学生の受入を実施。			○				○										
55	健康せたがやプランに基づく健康づくりの推進	区民や関係機関で構成する「烏山地域健康サポーター」と協働で地域の健康づくり活動を行っていく。										○							
56	大学生インターンシップ実習生受入れ事業	区の様々な部署で学生を実習生として受け入れることで、学生の職業意識の醸成や区政に対する理解の促進、学生の指導を通して区職員の資質向上を図る。	○	○	○	○	○	○					○						
57	せたがや学生ボランティア ネットワーク	区内の各大学、区、ボランティア活動団体等との間で、ボランティア活動に関するネットワークを構築し、大学生による地域活動を促進することを目的に以下を開催する。 (1) せたがや学生ボランティアネットワーク会議 (2) せたがや学生ボランティアフォーラム	○	○	○				○				○					○	○

No	事業名	事業概要	連携・協力先（区内大学）																	
			国士館大学	駒澤大学	昭和女子大学	成城大学	東京都市大学	東京農業大学	産業能率大学	多摩美術大学	東京医療保健大学	日本女子体育大学	日本大学文理学部	日本大学商学部	危機管理学部	日本大学スポーツ科学部	日本体育大学	明治大学	テンプル大学	
97	部活動地域移行トライアル事業 世田谷区中学校合同部活動（陸上競技）	学校部活動地域移行に向けたトライアル事業として、区内唯一の総合運動場陸上競技場を活用した合同部活動を実施し、競技力向上や交流等を促進し、中学生の更なるスポーツ環境の整備を目的とする。															○			
98	「世田谷区内犯罪ゼロの日」防犯イベント	世田谷区が毎年10月の全国地域安全運動期間中に行っている「世田谷区内犯罪ゼロの日」防犯キャンペーン中、区民を対象とした防犯イベントを実施。区内大学ボランティアサークルの学生がイベントに参加し、闇バイトについての広報啓発活動を行った。		○																
99	世田谷区ラジオ体操健康フェスタ	“うめとびあで楽しくラジオ体操を学ぼう!!” 講師にNHKテレビ・ラジオ体操指導者、日本体育大学体操部（指導補助）を迎え、ラジオ体操を通じて地域住民の健康づくりを推進するイベント。 ・主催：世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 運営管理室 東京リハビリテーションセンター世田谷 ・後援：世田谷区ラジオ体操連盟 ・運営：日本体育大学体操部																○		
100	ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の普及啓発事業	もしもの時に自分が受けたい医療やケアを医療・介護関係者や信頼できる家族やパートナーなどの身近な人と話し合い、自らが決定していく、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」の普及啓発するため、駒澤大学および学生によるアイデアとデザインを用い啓発を実施。		○																
101	令和6年度 SETAGAYA FUN AND SMILE SPORTS(烏山コース)	①スポーツに馴染みのない子どもが、笑って“スポーツの楽しさ”に触れる。 ②スポーツを競技的ではなく、総合的に多種多様な角度からアプローチすることで、 各年代に必要な、体本来の機能や運動神経・運動能力の向上を図る。 ③エンターテインメント性を高め、スポーツを継続する“楽しむ気持ち”を醸成。 (2)キッズ（幼児）：あらゆる動きを通じて「カラダを動かすことの楽しさ」を体感。 (3)ジュニア（小学生）：あらゆるスポーツを楽しむ「思い通りに動けるカラダ」を習得。																○		

